科目名 Subject	日本文化（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)		教員名	松﨑　美穂	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術で学び、それを再構築することにより日本の伝統文化を継承する。				
授業の目標	一般教養としての日本の華道史、及び生活芸術としての華道を学び、その華道の精神と技術の習得を通して美意識を高めることができる。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間同士の共生を改めて考え、コミュニケーション能力やホスピタリティー精神の必要性を実感できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業で学ぶ構成図や構成表の復習、花芸作品の再構成を行う。毎回の復習については60分～90分程度を想定しています。				
教科書・教材	教科書	花芸　安達流　演習ノート　「水」、補足のプリント配布			
	教材	演習ノート、筆記道具、色鉛筆、タオル、ノリ			
	使用設備・備品	花器、花鋏、剣山、花盆、花巾、色鉛筆			
	参考文献	花芸安達流安達瞳子著書全書			
評価方法	平常点２０％、毎回の課題点３０％、試験５０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	植物アレルギーなどがある生徒は、事前に報告すること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	花芸　安達流　入会「水」の終了証			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション　花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び、同時に初めて花芸作品の制作ができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第２回	花芸作品を制作するにあたってのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第３回	その季節の行事に合わせ、歴史や文化を学び、花芸作品を制作する	日本古来の文化や風習を学ぶことで、伝承美を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第４回	花芸作品を制作するために必要な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性と見方を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第５回	花材の自然な姿を尊重し作品を生けることを学ぶ	人と自然との共生を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第６回	花芸作品の美的バランスを学ぶ	造形空間について、日本と西洋の美的感覚の違いや、具体的なバランスを学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第７回	安達流の構成三原則の一つ、〈五態〉を学ぶ	生態学、形態学から、その形状に合った態を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第８回	安達流の構成三原則の一つ、〈文法〉を学ぶ	花芸作品を作成するにあたり、花材に役を定めることを理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第９回	花道史と花ばさみの扱いを学ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共に理解すできるようになる。	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１０回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げの仕組みなどを学び、植物の管理法を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１１回	文法の授業で学んだ〈主要三格〉の力関係の比率を学ぶ	主要三格の力関係〈コンポジション〉における美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１２回	花材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ花材間のバランスに加え、花器との全体のバランスを学び会得できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１３回	安達流の構成三原則の一つ、〈原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで、論理的に花芸作品の美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１４回	複数人で花芸作品を制作する〈連花の演習〉	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで、共同作業の美的効果を学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第１５回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した美的感覚、論理的演習法、自然や人、社会との共生のありかたを再考し、理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習